

論文内容要旨

Factors associated with professional confidence in Japanese public health nurses: A cross-sectional survey.

(日本の保健師における専門職としての自信に関連する要因：横断調査)

Public Health Nursing, in press.

主指導教員：中谷 久恵教授

(医系科学研究科 地域・在宅看護開発学)

副指導教員：川崎 裕美教授

(医系科学研究科 地域・学校看護開発学)

副指導教員：花岡 秀明教授

(医系科学研究科 老年・地域作業機能制御科学)

小川 智子

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

I. はじめに

近年、我が国は、急速に進む少子高齢化や生活習慣病の増加に伴う医療費の高騰が社会問題となっている。医療費削減に向けた衛生行政の改革から、子どもから高齢者まで地域住民すべての人々に保健活動を展開する保健師には、住民の行動変容を促す高度な保健指導技術が求められている。保健師は、国家の社会経済的価値をもつ職種であるといわれおり (Janie, 2014)、地域住民に質の高い保健サービスを提供するためには、知識や技術を高める教育だけでなく、社会的に担う責任や価値を認識し、実践に誇りや自信をもつキャリア支援が肝要である。

自信 (self-confidence) とは、自分の能力や価値を確信すること、自分の正しさを信じて疑わない心 (広辞苑, 2008) や、自己についての肯定的な評価 (心理学事典, 2007) と定義されており、自分の能力、行為、思考、価値を正しいと信じて疑わない自己に対する確信であると捉えることができる。しかし、「自信家」という言葉に象徴されるように、個人の性格に由来するもの (大芦, 2014) や、子どもの発達に伴い形成されるもの (小野寺, 2014) といった捉え方もあり、日本の心理学においては定義の曖昧さが指摘されている (大芦, 2014)。医療従事者の実践上の自信は、専門職としての自信 (professional confidence) として定義され、一般的な自信 (self-confidence) との相違を明確にする研究が進められている (Holland, Middleton, & Usy, 2012)。看護職における実践上の自信も実践能力の基盤となる概念であることから教育への有用性が示されているが (Perry, 2011)、我が国の看護職の実践上の自信は明らかになっておらず、看護職の中でも保健師が実践上の自信をどのように高めているのかを明らかにした研究はみられない。保健師が実践上で抱く「専門職としての自信 (professional confidence)」を高める要因が明らかになれば、自信の獲得から実践力を育む保健師のキャリア支援につながると考える。

II. 目的

本研究は、保健師の専門職としての自信の概念分析から自信に関連する要素を明らかにし、実際に行政機関で働く保健師への横断調査から、専門職としての自信を高める要因を明らかにすることを目的とした。

III. 研究方法

研究 1 では、Walker & Avant (2010) の概念分析の手法に基づき、自信の類似概念とされる自尊心と自己効力感を含めた保健師の実践上の自信が記述された国内外の 33 文献 (和文献 20 件、英文献 13 件) から、自信は何によってどうなるのかという自信が変化する現象に着目し、記述内容を質的記述的に分析して自信に関連する要素を抽出した。更に自信に関連する要素から自信の特性における操作的定義を開発した。

研究 2 では、研究 1 を明らかにする過程で抽出した 34 項目をもとに、全国の行政機関で働く保健師 1,512 名を対象に横断調査を行って、探索的因子分析および確証的因子分析から専門職としての自信に関連する要因を明らかにした。

III. 研究結果

研究 1 から、保健師の専門職としての自信に関連する要素は、「公衆衛生看護技術を用いた保健活動の展開」「実践に基づく知識や経験の蓄積」「実践をサポートする指導者や同僚の存在」「現

任教育の充実」「専門能力向上への主体的な努力」「実践の省察」の6つであった。この結果から、「保健師の専門職としての自信の特性とは、公衆衛生看護技術を用いた保健師活動の中で、保健師が専門能力向上への主体的な努力と、現任教育での実践の省察により、向上、獲得、喪失、回復することである」と定義した。

研究2では、883名(58.4%)から回答が得られた。分析は、研究1で開発した操作的定義を適応し、専門職としての自信を高める項目のうち1つでも未経験と回答した者を除外した467名(30.8%)を対象とした。探索的因子分析の結果から、自信を高める要因は、「第1因子：技術的な実践」、「第2因子：主体的な学習」、「第3因子：根拠の追求」、「第4因子：職場の教育者」の4因子17項目が抽出され、17項目全体のCronbach α 係数は、0.934であった。探索的因子分析で得られた因子によって仮定した因子モデルによる確証的因子分析の結果から、専門職としての自信の因子構造は、おおむね良好なモデルの適合度(GFI=.918, AGFI=.888, CFI=.958, RMSEA=.067)を示した。

IV. 結論

保健師の専門職としての自信を高める要因には、「技術的な実践」、「主体的な学習」、「根拠の追求」「職場の教育者」の4因子が存在していたことから、保健師の自信の獲得から実践力を育む人材育成には、本研究で明らかになった4因子を取り入れた現任教育プログラムが有益であると考えられる。